

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		Feed Parla				公表日	令和8年 2月 6日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		訓練室は十分に運動や学習が出来るスペースを確保しています。学習机、衝立など不足していますので計画し調達します。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>		人員配置を手厚くするため継続して求人募集を行う。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>		テナントのため大規模なバリアフリー化は難しいですが階段の段差に対応するスロープの設置を計画します。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		ジョイントマット、カラーボックスの更新など定期的に行い、経年劣化を見ながら更新計画を作成します。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>		相談室や静養室を活用し個別の用途に対応しています。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		月最低1回担当者会議及び支援会議を行い職員間で議論しています。職員間で情報共有しPDCAサイクルにつなげ改善に努めています。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		日頃からラインなどでご意見・ご要望をお聞きし保護者向けアンケートにより意向を把握しながら業務の改善につなげています。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		グループラインやミーティングにより日頃から意見交換の機会を作り業務に改善につなげています。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		<input type="radio"/>		外部評価は行っていませんが第三者評価機関による研修を受け仕組み作りを検討します。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		資質向上のため部内外様々な研修受講が出来る機会を確保しています。札幌市からの案内研修は積極的に時間を確保しています。		
適切	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>		適切な支援プログラムを作成しており、公表も行ってあります。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	<input type="radio"/>		お子さんと保護者の希望を聞き療育中に発生した個別の課題を分析し作成しています。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>		支援会議事前に原案を作成し職員回覧を実施することで各職員に周知し共通認識として検討を行っています。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>		完成後も職員相互で確認し合い再検討しながら計画に沿って支援を行っています。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>		標準化されたツールを使用しアセスメントを行い各児童の毎日の行動を観察することで確認しています。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	<input type="radio"/>		ガイドラインに沿って具体的に支援内容を設定しています。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	<input type="radio"/>		毎月の支援プログラムや行事の計画をチームで立案しています。		

な 支 援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		季節に応じた行事や外出行事制作を行っています。また、ダンス、ヨガ、ことば、折り紙、歌と絵本、ボール、SSTなど曜日ごと教室化を図り固定しないよう工夫しています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		個々の児童ごとの状況に合わせて個別活動と集団活動を組合わせて支援計画を作成し支援を行っています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援開始前に当日ミーティングを行い支援内容や役割分担を確認することで連携して支援を行っています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後は当日フィードバックを職員間で行い気づきを共有しています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		支援記録をとることで職員間で共有し日々の検証・改善につなげています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的なモニタリングを行うことで支援計画の見直し図り適時、適切な見直しを行っています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		活動内容ごとに支援のねらいを明確にし、4つの基本活動を単独で行うのではなく、運動や集団活動を通して複数の基本活動を組み合わせた支援を意図的に実施している。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定する力を育てるための支援を行っているか。	○		活動や参加方法に複数の選択肢を設け、子ども自身が選ぶ機会を大切にしながら、自己決定する力を育てる支援を行っている。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		日頃から子どもの様子や支援内容を把握している職員が会議に参画し、具体的な姿や変化を共有できるよう努めている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		保健・医療・福祉・教育等の関係機関と情報共有を行い、子どもの状況に応じた連携体制を整えた支援を実施している。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校と年間行事や下校時刻等の情報共有を行い、送迎時やトラブル発生時にも速やかに連絡調整ができる体制を整えている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		まだそのような子はいないが今後卒業後の進路を見据え、これまでの支援内容などを関係機関へ丁寧に情報提供を行っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		近隣の発達支援センターと密な連携を行い、利用児の相談や地域サポートを行なっている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○			放課後児童クラブや児童館等との交流について、機会はまだまだなく地域の子どもと関わる機会を今後さらに検討していく必要がある。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		地域の協議会等に積極的に参加し、他機関との情報共有や連携を深め、支援の質向上に活かしている。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		日々の様子や成長の変化を保護者と丁寧に共有し、発達状況や課題について共通理解を図りながら支援を行っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		家族の対応力向上を目的に、ペアレントトレーニング等の情報提供や、家族が参加できる研修機会の案内を行っている。	
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		運営規程や支援内容、利用者負担について分かりやすい資料を用いて丁寧に説明し、理解を得られるよう努めている。		
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		支援計画作成時には、子どもや保護者の意向を丁寧に確認し、最善の利益を踏まえた支援内容となるよう努めている。		

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		放課後等デイサービス計画を示しながら支援内容を丁寧に説明し、保護者の理解と同意を得たうえで支援を実施している。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		家族からの子育てに関する相談に丁寧に対応し、面談等を通して状況に応じた助言や支援を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		交流機会については十分とは言えず、今後、保護者会等の開催を含めた支援の充実が必要である。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情対応の体制を整備し、保護者等へ周知するとともに、相談や苦情があった際には迅速かつ適切に対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		通信の発行やホームページ、SNSを活用し、活動内容や行事予定、連絡体制について分かりやすく情報発信を行っている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の取扱いに関する規程を定め、職員間での周知徹底を図りながら、適切な管理と運用に努めている。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		子どもや保護者の特性に応じ、分かりやすい表現や手段を工夫し、円滑な意思疎通と情報共有に努めている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		事業所行事への地域住民の参加は限定的であり、今後は地域に開かれた事業運営となるよう取組の検討が必要である。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種マニュアルを整備し職員へ周知するとともに、緊急時等を想定した訓練を行い、安全な支援体制を整えている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画（BCP）を策定し、非常災害に備えた避難等の訓練を定期的に実施し、安全確保に努めている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		利用開始前や日頃の確認を通じて、服薬状況や予防接種、てんかん発作等について把握し、支援に反映している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		医師の指示書をもとに食物アレルギーへの対応を行い、職員間で情報共有しながら安全管理に努めている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を策定し、研修や訓練を通して職員の意識向上を図り、安全管理を徹底した支援を行っている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全計画に基づく取組内容を家族へ分かりやすく周知し、連携を図りながら子どもの安全確保に努めている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット事例を職員間で共有し、原因分析と再発防止策を検討することで、安全な支援体制づくりに努めている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止に関する研修機会を設け、職員の理解と意識向上を図り、適切な対応ができる体制を整えている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束が必要となる場合を組織的に整理し、事前に保護者へ説明・同意を得た上で計画に明記している。		